

家庭教育、基本のキ
—子どもに勉強しろと言う前に—

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

小学生や中学生、高校生と大人が接する場合に、どんな点に注意をしたらよいだろうか。

本年6月以来、毎週3～4日、夜8時から10時まで開倫塾の保護者の方を対象に、私がお話をしてきた内容のごく一部をここに紹介させて頂く。

2. 子どもに勉強しろと言う前に…

①保護者が家で子どもにできることの一つに、食事をさせることがある。昼食は給食等でとることが多いであろうが、朝食と夕食は家でとるのが普通だと思う。朝食は年に365回、夕食も年に365回、合計で730回とることになる。もし可能であれば、子ども一人でポツンと食事をとらせるよりは、保護者の方が一人でも一緒に食事をとって頂きたい。もし都合で、子ども一人で食事をとらなければならない場合は、毎回大変かもしれないが、一言メッセージを子どもに伝える工夫をして頂きたい。大人もそうかもしれないが、子どもは寂しがりであるので、何らかの形で、「目には遠いかもしれないけれど、心は近くにあるのよ」というメッセージを伝えて頂きたい。

1年730回、10年で7300回、そんな風にしてもらうのとそうでないのとを比べると、大人の手間はかかるかもしれないが、ちょっとした工夫で子どもが寂しい思いをすることが随分と少なくなると思う。

②では、保護者の方が食事中にそばにいればよいかというと、必ずしもそうではない。会話の内容が問題だ。

例えば、お母さんと子どもが二人で食事をしているとする。お母さんは大人なので、大人の間のような人間関係で悩んでいることが多い。夫である子どもの父親と時々グチャグチャすることもあろう。夫の父親や母親とうまくいかない場合も時にはある。夫の兄弟姉妹とグチャグチャすることも時にはあるかもしれない。勤め先の上司や同僚、部下とトラブルを起こしていることも時にはあるかもしれない。学校のPTAの人やボランティア団体、趣味の会、アスレチッククラブの方と面白くない状況に陥ることもたまにはあるかもしれない。隣近所の人とゴチャゴチャしてしまうことだって時にはある。大人であるから、30年以上お互いに生きていればなかなか理解しきれないことも多く、気にし始め思い返してみると、いくらでも腹が立つことは多いかもしれない。大人同士の人間関係は複雑で、グチャグチャしたり、うまくいかないことは仕方がないことが多い。

私がお願いしたいのは、そのような複雑な大人の人間関係についての「グチ」や、「悪口」を「食事中に」子どもに伝えなくて頂きたいということだ。5歳～18歳位の児童・生徒は、大人同士の複雑な人間関係についての「悪口」や「グチ」を伝えられるには余りにも若すぎる。子どもを大人の「カウンセラー」にするのは余りにも気の毒だ。どうしても子どもに「グチ」や「悪口」を聞いてもらいたければ、20歳を過ぎて大人になってからにしてもらいたい。

「最大の家庭教育は、隣近所の悪口を親が子どもに言わないことです」と、京都の山科にある一燈園の石川洋先生から教わったことがあるが、その通りであると思う。

③次に、食事中に口にしてならないのは、他人とその子を「比較」することだ。例えば、12月に入って通知票を学校から頂いて来た日に、食事中に、他の人と「比較」をされたら、子どもは本当に気の毒だ。「兄弟姉妹の〇〇ちゃんは、あなたよりも成績がよくて偉い」「隣近所の〇〇ちゃん、親戚の〇〇ちゃんはよい成績で素晴らしい」あげくの果ては「あなたのおじいちゃんは成績がよかった」「お父さんは随分できたのに、あなたはまったく…」とか、「私が中学時代は、あなたよりは遙かにより成績をとったのに…」などと言われると、子どもは存在する場所がなくなり、せっかくの食事もノドを通りにくくなる。

兄弟姉妹や隣近所、知り合いや親戚には必ず何人かは成績のよい人がいることが普通だ。その人たちを引き合いに出して、子どもと「比較」をなさらないように、くれぐれもお願いしたい。

「ガラスの十代」「ギザギザハートの子守り歌」などと、歌にもなるように、子どもの心は傷つきやすい。大人と同様、子どもも「比較」されるのが何より辛い。

*ちなみに、毎学期の終業式、つまり「通信簿もらい」の日には、お子様に「手づくりのごちそう」をお出しになるとよいと思う。もし、お子様の成績が前学期よりも少し上昇したら、「よかった会」を、少しでも下がったら、その子にとっての「残念会」をと、一人一人のお子様ごとに、「〇〇ちゃんはよくがんばったから『よかった会』だね」「〇〇君はもう少しがんばった方がいいから『残念会』だね」と言って励ましてあげると、子どもは救われることが多い。他人と「比較」されるわけでもないので、「通信簿もらいの日」が楽しみになり、成績も上昇することが多い。小学校入学から高校卒業までの12年間に、1年に3回、合計36回「通信簿もらいの日」がある。そのたびごとに他人と「比較」され、おこられるのと、手づくりのごちそうで「よかった会」「残念会」を開いてもらい励まされるのでは、長い目で見れば、随分と子どもの「成績」の伸びにも関係する。「通信簿もらいの日」には、このような心温まる小さな家庭内「イベント」をお願いしたい。

④子どもの顔を見るたびごとに、「勉強しなさい」とログセのように言い続けることも避けた方がよい。まして、食事中に「もっと勉強せよ」と毎回1回以上は口にすることはお避けになった方がよい。

これは、「もっと仕事をなさい。売り上げを増やしなさい。利益を出しなさい」と部下が上司から会うたびごと、また、食事する都度に言われるのと同じだ。やる気をなくしたり、反発をする直接の原因ともなりやすい。

特に、定期試験をあと1～2週間後にひかえた生徒や、受験をひかえた受験生に、いてもたってもいられず、「勉強しなさい」と言うことは避けた方がいい。本人たちは、そろそろ勉強しなければと思っている。そのところに「勉強しろ」と言われると、やる気を失ってしまうからだ。「私が言わなくて、一体誰が言うのか、試験は間近なのに」と、保護者の皆様のあせる気持ちはわかるが、試験の迫った子どもに「勉強しなさい」と責め続けることは、できるだけ避けた方がいい。

⑤では一体、保護者である親は、どのように子どもに接すればいいのか。何を口にしたらいいのか。

子どもが小さい時には、学校の勉強を見てあげることもできるが、中学や高校になると、なかなか教えるのも難しい。だから、つい他人と「比較」をしたり、「勉強しなさい」と言い続けてしまうのが、本音なのではないか。ではどうしたらいいのか。

最もいい方法は、保護者の方が、何でもいいからテーマを見つけて、一心不乱になって勉強する姿を子どもに後から見せることだ。今まで家に帰ればゴロゴロしていたお父さんが、急にコンピューターの勉強をし始めたり、ワイドショーの内容しか話題にしなかったお母さんが、厚い文芸書を読みふけるようになると、家族内の「知的雰囲気」が急変する。子どもも親が変わったのなら、自分も変わって親に負けじと勉強し始めることが多い。

率先垂範。子どもに死ぬ気で勉強しろと言う前に、保護者の皆様が死ぬ気で勉強し始めることが、子どもに勉強させるのには最も手取り早い方法だ。時々「何のためにこの勉強をしているのか」「どのような勉強をしているのか」「この勉強をされていて、どこが面白いのか」「どのようなことが問題となっているのか」「どのような方法でこの勉強をすすめるのが最も効率的か」等々をできるだけやさしく、かみ砕いて説明してあげると、子どもは「勉強というものは面白いものだ」「お父さんやお母さんに負けないようがんばらなくては」と思い、今までの何倍もエネルギーに家でも学校でも学習塾でも勉強するようになる。

子どもに遠慮は不要である。子どもに恥ずかしがることもない。大人が全力で取り組んでいる勉強の内容について「熱っぽく」お話しをしてあげることが、子どもの知的好奇心を育むものだ。

将来、子どもに就かせたい職業についての希望がもし保護者の皆様にあるのなら、一般教養を高めるといふ観点から、その分野の最高水準の施設を見学にいたり、その分野に精通している方に子どもを引き合わせてあげると、ムリヤリでなく、子どもの自由な意思で将来の進路を捜し求める時、大いに役に立つ場合が多い。

3. おわりに

- ①女子が赤飯で祝ってもらえるような現象が、男子にも14歳ころあるが、男子は誰にも祝ってもらえず、嫌悪感で悩み抜く場合が多い。「白昼夢」のような状況、「心の中に嵐が吹きすさぶ」ような状況が何か月か続くと言われる。今までしっかりしていた子が、ガックリして、一見「なまけ者」のようにまわりから見えることも多い。

そのような男子生徒たちを見て、「もっとしっかりしなさい」「勉強もしないで何だ」とか、言いたいこともあるかもしれない。が、もしできれば、「なじる」ことは避けて頂きたい。誰でも一度は通過する大人になる一段階であるとお考え頂いて、どうか「温かく見守ってあげる」ことをお願いしたい。女子は赤飯までたいて祝ってもらえるのに、男子は本当に気の毒なのが14歳の中学生だと思う。

- ②もしできれば、週に1回、例えば日曜日の夕方にでも子どもを連れ出し、家族みんなで森や緑に囲まれた場所に行き、散歩をしたり森林浴をするとよい。「メジテーション」や「呼吸法」、「気功」、「座禅」などがたとえ20～30分でもそこでできれば、子どもだけではなく、大人の情緒の安定にも役立つ。

- ③普段は忙しいかも知れないが、最後のところで保護者の方が「心静かな生活」を目指して頂ければ、子どもたちは伸び伸び育つことが多いのではないかと思う。

大変かもしれないが、がんばって頂きたい。

次回から、「林明夫の視察シリーズ」を再開させていただきます。1月号は、「タイペイ」から報告。お楽しみに。